

**落ち着いてベストを尽くそう!****センター試験受験上の注意**

①「受験票」と一緒に配付した「受験上の注意」をもう一度よく読んでおきましょう。

②試験場を確認すること。全員**大阪府立大学**です。南海高野線「白鷺駅」からでも「中百舌鳥駅」からでも徒歩で行くことができます。電車のダイヤは休日ダイヤで、普段乗っている電車と時間が違う場合があります。**休日ダイヤの朝の時間帯を確認しておくこと。**

③**受験票・写真票は、必ず持参すること**（自署欄に署名し、写真を貼り付けておくこと）。万一、忘れてしまった場合や、会場へ行く途中で忘れたことに気づいた場合でも、絶対に家に取りに帰ったりしないこと。「試験場本部」に行き、仮受験票、仮写真票の交付を受ければ受験できます。「試験場本部」の場所は、試験会場の入口に掲示されています。

④時間に余裕を持って出かけ、決して遅刻をしないこと。しかし、早過ぎると門外で待たされる事になります。（両日とも、各自の最初に受験しなければならない教科・科目の30分前には受験会場の門をくぐっておくように）。試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り、受験が認められます。指定教室の係員に申し出て下さい。ただし、リスニングテストは開始時刻までに入室していないと受験でき

ません。また「地歴・公民」「理科」で**2科目受験を申請し、遅刻した場合、2科目めからの受験はできません。（第1解答科目試験開始後20分以内の遅刻の場合だけ受験できる）**。

⑤解答には、必ず「黒鉛筆（H・F・H Bのいずれか）」、「プラスチック製の消しゴム」を使用すること。シャープペンシルは、下書きや計算以外には使用できません。

⑥問題を一通り見て、解答していく。難しい問題であっても慌てない。自分にとって難しい問題は、誰にとっても難しいと考えること。問題を解答する順序も臨機応変に!

⑦**解答科目がマークされていない場合や、複数の科目にマークされている場合は、0点になります**。またその場合、希望する大学が受験できなくなることがあるので、くれぐれも注意すること。

⑧**マークミスに注意! 解答は問題冊子にも正確に書きこみ持ち帰ること。問題冊子に書きこんだ自分の答を自己採点し、問題冊子を15日に学校へ持参すること。** ※鉛筆と黒ボールペンも忘れないこと。

⑨服装は自由ですが、着脱しやすいものを着ていこう。会場の暖房に合わせ、体温調節をする。英文字や地図等がブ

リントされている上着等を着用している場合には、会場で脱がされることもあるので、注意すること。

⑩指示された物以外は持ち込まない。特に、**携帯電話を持って行った場合は、必ず電源を切ってカバンの中に入れておくように**（身につけていると不正行為とみなされる可能性があります。）**所持品チェック（『受験上の注意』にある）は、必ず前日の夜には済ませておくこと。**

⑪**試験が受けられなくなった場合急病や会場へ行く途中の事故などで試験が受けられなくなった場合は、「受験上の注意（P.14～15）」に記載されている指示に従うこと**（事前によく読んでおく）。

☆疾病・負傷・試験場に向かう途中の事故・やむを得ない事由の場合、**受験票に記載されている「問い合わせ大学」に電話連絡し、その指示に従って追試験の受験を申請する。**「問い合わせ大学」に連絡した後、担任へ事後報告をしておくこと。

☆急病等で受験できなくなった場合は、**1日目全科目、2日目全科目という形での1日単位での追試のみ実施されるが、1日目・2日目の科目ごとの追試というものはない。つまり、第1日目または第2日目において、1つの教科・科目でも受験した場合は、当該試験日は追試の対象とはならない**（朝受け始めたら、早退は許されないということ）。

☆追試の申請の受付時間は、前日(今日)は9時00分～17時00分まで、当

日はそれぞれ7時30分～1日目18時10分、2日目17時40分まで。試験場に向かう途中での事故等の場合は**その日の試験終了時刻**までです。それを過ぎると、いかなる理由があっても受け付けてもらえません。

☆今年の追試験は、1月20、21日に実施されます。 ※於:大阪教育大学(柏原キャンパス)

⑫1日目の採点はその日にはしないこと。最初にも書きましたが、一つ一つの科目の自分の出来不出来が、どれほどの重みになるのかは、集計結果が出るまで分かりません。1日目のセンター試験の正解や配点は、その日の夜のテレビや翌日の新聞で報道されますが、それは見ないようにして、翌日の試験に集中するようにしましょう。

⑬志望大学(受験する可能性のある大学は全て)のセンター試験及び2次試験の入試科目をもう一度確認。特に「地歴・公民」「理科」の科目については注意すること

※センター受験票は2次試験や入学手続きの時にも必要なので、大切に保管しておくこと

前号の訂正

前号の『マークミスを防ぐアドバイス』で、「②大問ごとにマークする」という項目がありましたが、国語や社会では「小問1つ1つ塗っていった方が間違いに気付く機会が増え、時間切れで塗れなかったという致命的ミスも防ぐことができる」という指摘がありましたので、訂正します。